

分 か る と 快 感 !

Z会ナビ

算数

理科

社会

お題

北条義時ってどんな人?

(京都大学 2019年 白本史)



執権政治が確立するなかで、北条時政・北条義時が果たした役割を説明しなさい。

2022年の大河ドラマのタイトル・主演俳優が発表されました。タイトルは「鎌倉殿の13人」、平安時代末期の平氏・源氏の争いから、初めての武士による政権である鎌倉幕府が確立するまでの時期を扱うとのこと。俳優の小栗旬さんが演じる主人公が、北条義時です。放映開始はまだまだ先ではあるのですが、今回は「鎌倉殿の13人」の予習も兼ねて北条義時の生涯に着目してみましょう。

源頼朝との出会い

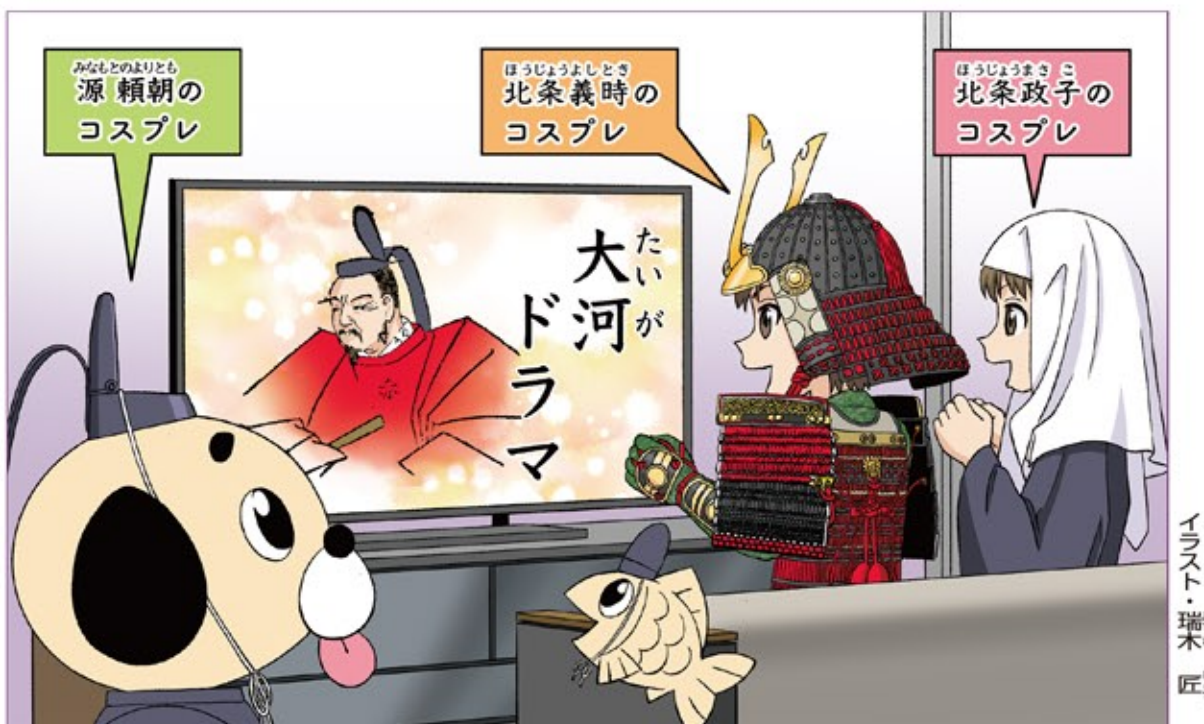
北条義時の父、北条時政は現在の静岡県伊豆の国市周辺を拠点とする武士でした。地方の小さな一武士に過ぎなかった北条氏が、歴史の表舞台に登場するきっかけとなったのは、のちに平氏を倒し、鎌倉幕府の初代将軍となる源頼朝との出会いでした。

平安時代末期、京都では武士の平清盛と源義朝(頼朝の父)が天皇家や有力貴族と結びつき、勢力を広げていました。そんな中、1159年に天皇家と有力貴族がからんだ勢力争いが起き、平清盛と源義朝も戦うことになりました。この平治の乱という戦いで勝利をおさめたのは平清盛でした。源義朝は敗死し、息子である頼朝は伊豆に流されました。その際、伊豆での頼朝の監視役となったのが、北条時政です。そして時政の娘で義時の姉である政子が、頼朝の妻になりました。

京都では平治の乱で勝利した平清盛の平氏が政治の中心を担い、強大な勢力を誇っていました。しかし、そのような平氏に不満を募らせる人々が次第に増え、平氏を倒そうとする機運が高まります。その中で頼朝も関東の武士を集めて挙兵し、そこに時政・義時も参加することになります。時政・義時にとって、頼朝と政子の結婚があったとはいえ、絶大な権力を誇っていた平氏に反旗を翻す頼朝に加担するのは、一か八かの大ばくちでした。

鎌倉幕府の中での権力争い

頼朝率いる源氏方の武士は平氏との戦いで見事勝利をおさめました。地方の小さな一武士に過ぎなかった時政・義時は、平氏との戦いの中で有力な地方武士を頼朝側につかせるなど、源



イラスト・瑞木匠

氏の勝利に貢献し、頼朝が初めての武士による政権である鎌倉幕府の体制を固めていく中、頼朝の重臣の地位を確立していきます。

しかし、鎌倉幕府の中心にいた頼朝が急死することで、鎌倉幕府と北条氏の運命は大きく変わっていきます。頼朝の死後、頼朝の子の頼家が2代将軍になりますが、頼朝のときのような将軍独裁ではなく、有力な家臣たちによる協議でさまざまなものが決められることになりました。この協議に携わる家臣が13人だったため、この体制は13人の合議制、と言われていました。22年大河ドラマのタイトルにある「13人」がここで出てきましたね。時政と義時はともにこの13人の中に入りました。そして、ここから義時の成り上がりが始まります。

13人の中には時政・義時と同じかそれ以上の権力を持った武士も多くいました。その中で、時政と義時は、ほかの有力な武士たちとの権力争いに勝利し、さらに2代将軍の頼家を追放してしまいます。3代将軍には頼家の弟の実朝がつきますが、鎌倉幕府の実質的な権力は時政・義時にありました。やがて時政と対立するようになった義時は、時政も追放し、時政がついていた「執権」の地位を手に入れました。執権とは、鎌倉幕府の実質的な最高権力者の地位のことです。以降、鎌倉幕府では代々執権を務める北条氏が最高権力を握ることになります。

天皇家との戦い

その後、3代将軍実朝が頼朝の子に殺害され、頼朝の血統が途絶えました。義時は京都の天皇家から将軍を迎えようとはしますが、天皇家の長

である後鳥羽上皇から拒否されます。この時代、関東に鎌倉幕府があったものの、京都の天皇家の権力も絶大であり、この将軍後継者問題により、鎌倉幕府と天皇家の間の緊張が高まってきました。

そして、ついに後鳥羽上皇は義時を倒す命令を出し、挙兵します。天皇という絶対的な権威から敵とされたことで、幕府側の武士も動揺したものの、幕府軍は義時と義時の姉の政子を中心に団結し、上皇軍に完勝しました。この戦いを承久の乱といいます。この乱の後、天皇家の権力は幕府の方で大きく抑えられることとなり、北条氏が担う執権を中心とした鎌倉幕府による政治が、全国的に進められることになりました。

乱の3年後、義時は急死します。義時の生涯は、北条氏が執権政治の礎を築いた、まさにその過程そのものだったといえるでしょう。

(Z会・河原井彩)

今回の教訓

北条義時は、鎌倉幕府が成立し、北条氏を中心とする政治が安定していく礎を築いた人物でした。地方の一武士から国の最高権力者に成り上がるさまは、ドラマとしても見どころが多そうですね。



河原井彩さん 2007年に入社。中学生向け社会、高校生向け日本史教材の編集を経て、現在は幼児向け教材を担当。新潟県生まれの埼玉県育ち。